江戸吉原叢刊 全七巻

吉原（遊廓）と歌舞伎は、江戸文化の二つの華！
その内で研究が遅れていた
吉原の資料を初めて集大成。
挿絵・地図を多数挿入。
原本の体裁を残した
見やすい待望の書！

近世文学・演劇・日本語・浮世絵・風俗史研究に不可欠な
江戸吉原の「遊女評判記」を翻刻。「吉原細見」（案内地図・妓楼名・遊女名）を影印。

「遊女評判記」は原本の体裁を残して組み、挿図や遊女の紋をそのまま収め、正確で読みやすい翻刻とした。
近世語彙を含む事項・人名索引を付す。「吉原細見」は時代毎の特徴的・代表的なものを精選した。
妓楼の消長や遊女の変遷が分かるように配慮した画期的な索引を付す。

江戸吉原叢刊刊行会 編
大橋正叔
丹羽謙治
伴野英一
水谷隆之
渡辺憲司

八木書店

Theater area (Kabuki) and Demimonde (Yoshiwara), the 2 big spots in Edo, where the action was!A first ever academic collection chronicling the history of Yoshiwara and its courtesans.A powerful tool in documentary info on Yoshiwara to catch up with Kabuki scholarship.Transcripts of various Yujo hyobanki (courtesan catalogues) of Edo Yoshiwara.Comprehensive photo version of Yoshiwara saiken, a guide map with salons and courtesans specified.Both with detailed index.

ご購入のご案内

江戸吉原叢刊 全7巻

2010年2月より刊

各巻平均予価12,600円（本体12,000円＋税5%）
A5判・上製本・カバー装・平均450頁（＊本叢刊は分売いたしません。全7巻セットでご予約下さい）
ISBN978-4-8406-9750-7 C3393（セット）

第1巻 元和期（一六一五）～寛文十一年（一六七一）
編集担当：渡辺憲司（立教大学）
四十二のみめ諍ひ・そゝろ物語・あづま物語・吉原鑑・吉原大全新鑑・吉原すゞめ・讃嘲記時之太鼓・吉原よぶこ鳥・吉原天秤・吉原六方・ぬれほとけ
2010年2月15日刊行

第2巻 寛文二年（一六六二）～延宝三年（一六七五）
編集担当：大橋正叔（天理大学）
吉原伊勢物語・吉原用文書・吉原こまざらい・吉原袖鑑・吉原失墜・吉原局総覧・吉原大雑書・山茶やぶれ笠
2010年4月15日刊行　以下3ヶ月毎の刊行

第3巻 延宝六年（一六七八）～延宝九年（一六八一）
編集担当：水谷隆之（佛教大学）
吉原恋の道引・吉原歌仙・吉原人たばね・伽羅包・吉原あくた川名寄・吉原下職原・吉原三茶三幅一対
2010年7月15日刊行

第4巻 天和二年（一六八二）～正徳二年（一七一二）
編集担当：水谷隆之（佛教大学）
吉原買物調・恋慕水鏡・吉原大豆俵評判・吉原酒てんとうじ・吉原源氏五十四君・新吉原常々草・新改さいけん名寄評判・なよせ色竹・吉原草摺引・五太力菩薩手鑑・傾城百人一首・吉原大黒舞・吉原徒然草・吉原七福神
2010年10月15日刊行

第5巻 正徳三年（一七一三）～安永三年（一七七四）
編集担当：伴野英一（防衛医科大学校）
ゑにし染・新吉原大尽舞・吉原丸鑑・傾城つれつれ草・吉原源氏六十帖評判・吉原諺八景・吉原出世鑑・吉原評判交代盤栄記・吉原大全・遊婦多数奇・里のをだまき評・一日千本
2011年1月15日刊行

第6巻 安永四年（一七七五）～慶応元年（一八六五）
編集担当：伴野英一（防衛医科大学校）
青楼花色寄・大通伝・廓中美人集・百安楚飛・玉菊燈籠辨・咄の絵有多・おむなつう文章・通ふ神の講釈・傾城異見之規矩・金枕遊女相談・深弥満於路志・滑都洒美選・令子洞房・娼家用文章・教訓相撲取草・遊女大学教草・四季の花・今昔吉原大鑑・つゞれの錦・高尾物語（瓦版）・傾城秘書・傾城三略巻
人名・事項・語彙・索引
2011年4月15日刊行

第7巻 細見（影印版・索引付き）判型、価格未定
編集担当：丹羽謙治（鹿児島大学）
遊君女郎花（宝永6）・〔新吉原細見〕（享保12）・吉原細見之絵図（享保16）・〔新吉原細見〕（享保20春）・所縁桜（享保21春）・三改大夫（元文3春）・恋の湊（寛保3春）・丸山土産（延享5春）・吉原燕（宝暦2秋）・多知姿（宝暦4春）・入相乃花（宝暦5春）・数粋の盞興（宝暦8春）・細見里慈童（宝暦10秋）・吉原細見福濫雀（宝暦13春）・水かがみ（明和2秋）・細見新嬉楼（明和9春）・金農町（安永8秋）・よしはらさいけんたつたひめ（天明元秋）五葉のまつ（天明2春）・新吉原細見（天明3春）・新吉原細見（天明5秋）・吉原細見（寛政4春）・〔新吉原細見〕（寛政9春）・〔新吉原細見〕（文化6春）・〔新吉原細見〕（文政9秋）・〔新吉原細見〕（天保3秋）・〔新吉原細見〕（天保11秋）・〔新吉原細見〕（嘉永元秋）・〔新吉原細見〕（安政5春）・〔新吉原細見〕（明治5春）
2011年7月15日刊行
（収録書目は変更する場合があります）

好評既刊書

新版 色道大鏡

藤本箕山著の遊里百科全書を全文翻刻。江戸寛文期の京都島原遊郭の内実を基として、時代の変化・地方遊郭との差異を、三十年かけて全国を踏破して記録した、天下の奇書。遊郭内の名前の由来、しきたり、遊びの実際、心中・起請文など、古典芸能として現代につたわる歌舞伎や落語など、本書を読むことでより一層楽しみが深化する近世風俗を知る上での基本図書。
新版色道大鏡刊行会編（大橋正叔・沖森卓也・倉島利仁・伴野英一・渡辺憲司〈代表〉）
定価20,790円（本体19,800円＋税5%）　A5判 788頁　ISBN4-8406-9639-X C3092

近世芸苑譜

著者の西鶴研究は、近世文学研究の最高峰である。ただしそれには広大重厚な研究群の裏付けが存した。今度喜寿記念の一つとして出刊の本書がそれを物語る。収める所、近世初期の遊里と色道論、元禄の歌舞伎浄瑠璃、中・近世の歌謡、そして近世後半の文人達の研究、その悉くが著者薬籠中のものだったのである。
野間光辰著　定価10,290円（本体9,800円＋税5%）　A5判 488頁 ISBN4-8406-9071-5 C3095

八木書店出版部
Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept.
〒101-0052東京都千代田区神田小川町3-8
●TEL：03-3291-2961［営業］-2969［編集］-6300［FAX］
●E-mail：pub@books-yagi.co.jp●Web：http://www.books-yagi.co.jp/pub

2010.1　JP15,000

見本組　50%に縮小

刊行に当たって

本叢刊の時代範囲は、元和元年（一六一五）頃から明治時代直前の江戸時代、19世紀半ばごろまでである。対象とした遊里は、元吉原・新吉原の時代であり、本叢刊は、吉原の遊女に関する当代の〈生〉の言説としての第一次資料を、原本の体裁を残しながら、読者の利用に配慮し翻刻を行い、時代毎の代表的な「吉原細見」を明治初年まで影印版として全七巻に集大成したものである。

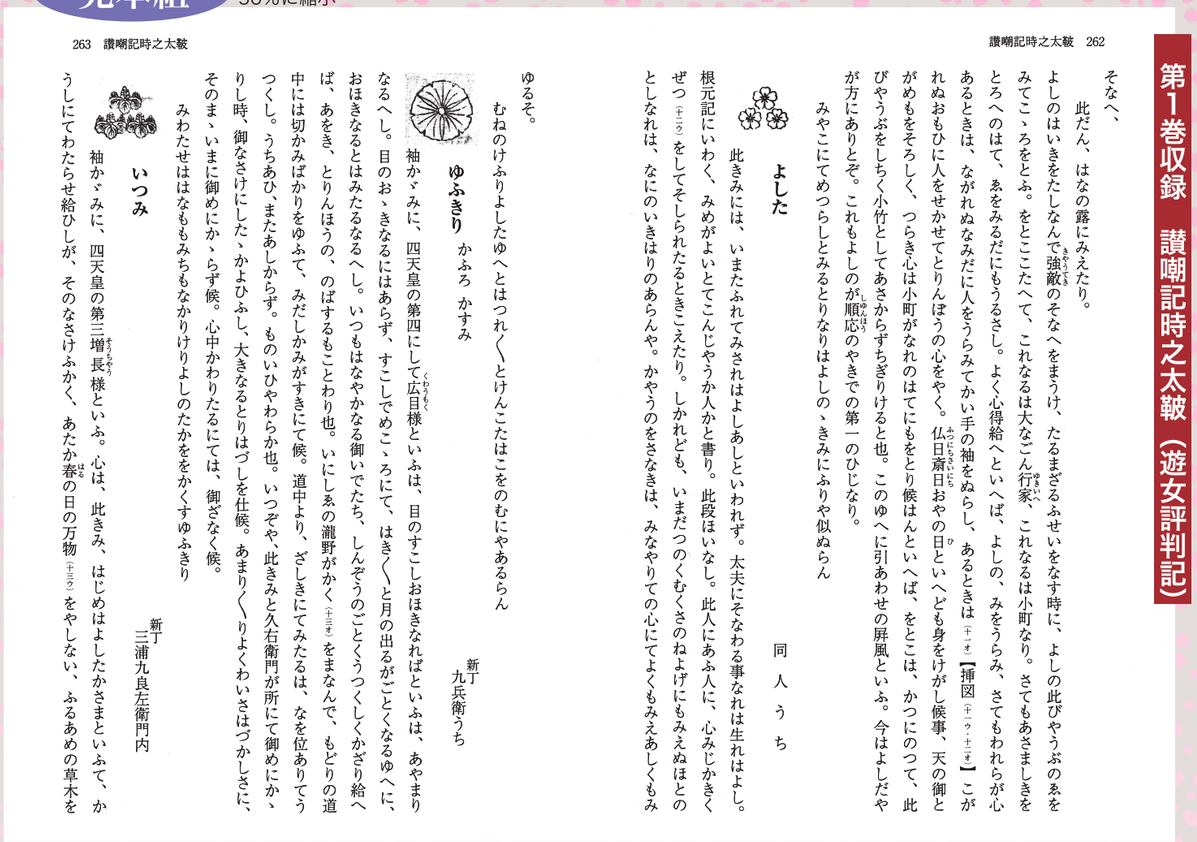
江戸吉原は、流行の先端性と大衆文化の集積地である。吉原が江戸のディズニーランドであるといった見方がある。それは一般には余り知られていないが、女性客をも迎え入れたという事実による。まさに観光都市江戸のメッカというべき吉原の再評価は、都市文化・民俗学研究へ新たなる視座を提供する。

従来も〈遊女評判記〉の類は多く紹介されてきた。しかし、吉原に関する資料はほとんどが散逸し、入手しがたいものも多く、昨今の研究水準に耐え得る翻刻資料も少ない。現段階では研究の俎上とするには旧態となったといえるものも多い。本叢刊は、散らばっていた資料（〈遊女評判記〉「吉原細見」）を集大成することによって研究者・愛好者の便宜をはかるものである。収録する資料は、海外所在のものを含めて精査して底本を定め、現時点での、学界最高水準の公刊を目指す。

また、語彙索引を第六巻に付し、第七巻に「吉原細見」を影印版で掲載し、さらにその索引を付けた。大規模の細見の公開および、その索引は、最初の試みである。本叢刊で集積された語彙は、文語と口語の狭間にあるもので、索引における風俗語・身体語彙は、江戸時代語の研究に多大な資料的価値を提供することは言を俟たない。

江戸吉原叢刊刊行会　渡辺憲司

第1巻収録　讃嘲記時之太鞍（遊女評判記）



讃嘲記時之太鞍　262

そなへ、
此だん、はなの露にみえたり。
よしのはいきをたしなんで強敵のそなへをまうけ、たるまざるふせいをなす時に、よしの此びやうぶのゑをみてこゝろをとふ。をとここたへて、これなるは大なごん行家、これなるは小町なり。さてもあさましきをとろへのはて、ゑをみるだにもうるさし。よく心得給へといへば、よしの、みをうらみ、さてもわれらが心あるときは、ながれぬなみだに人をうらみてかい手の袖をぬらし、あるときは（十一オ）【挿図（十一ウ・十二オ）】こがれぬおもひに人をせかせてとりんぼうの心をやく。仏日斎日おやの日といへども身をけがし候事、天の御とがめもをそろしく、つらき心は小町がなれのはてにもをとり候はんといへば、をとこは、かつにのつて、此びやうぶをしちく小竹としてあさからずちぎりけると也。このゆへに引あわせの屏風といふ。今はよしだやが方にありとぞ。これもよしのが順応のやきでの第一のひじなり。
みやこにてめつらしとみるとりなりはよしの、きみにふりや似ぬらん

同人　うち

よした

此きみには、いまたふれてみされはよしあしといわれず。太夫にそなわる事なれは生れはよし。根元記にいわく、みめがよいとてこんじやうか人かと書り。此段ほいなし。此人にあふ人に、心みじかきぜつ（十二ウ）をしてそしられたるときこえたり。しかれども、いまだつのくむくさのねよげにもみえぬほとのとしなれは、なにのいきはりのあらんや。かやうのをさなきは、みなやりての心にてよくもみえあしくもみゆるぞ。
むねのけふりよしたゆへとはつれ〳〵とけんこたはこをのむにやあるらん

新丁　九兵衛うち

ゆふきり　かふろ　かすみ

袖かゞみに、四天皇の第四にして広目様といふは、目のすこしおほきなればといふは、あやまりなるへし。目のおゝきなるにはあらず、すこしでめこゝろにて、はき〳〵と月の出るがごとくなるゆへに、おほきなるとはみたるなるへし。いつもはなやかなる御いでたち、しんぞうのごとくうつくしくかざり給へば、あをき、とりんほうの、のばするもことわり也。いにしゑの瀧野がかく（十三オ）をまなんで、もどりの道中には切かみばかりをゆふて、みだしかみがすきにて候。道中より、ざしきにてみたるは、なを位ありてうつくし。うちあひ、またあしからず。ものいひやわらか也。いつぞや、此きみと久右衛門が所にて御めにかゝりし時、御なさけにしたゝかよひふし、大きなるとりはづしを仕候。あまり〳〵りよくわいさはづかしさに、そのまゝいまに御めにかゝらず候。心中かわりたるにては、御ざなく候。
みわたせはなもみちもなかりけりよしのたかををかくすゆふきり

新丁　三浦九良左衛門内

いつみ

袖かゞみに、四天皇の第三増長様といふ。心は、此きみ、はじめはよしたかさまといふて、かうしにてわたらせ給ひしが、そのなさけふかく、あたか春の日の万物（十三ウ）をやしない、ふるあめの草木を

▼前見返し（総値段其外合印）一丁オ
（序：朋誠堂喜三二）

▼四丁ウ・五丁オ
（江戸町一丁目）

吉原細見の見方

天明5年秋（1783）「新吉原細見」蔦屋重三郎刊

当代一流の戯作者が寄稿

朋誠堂喜三二

遊女名

妓楼名

妓楼の紋所

遣手名

禿名

遊女の格と揚代

紋日（特定の祝日。馴染みの客に必ず来店してもらう日）

合印によって遊女の格と揚代がわかる

遊女評判記とは、遊女個人の容色・性格・技芸をはじめ、接客態度、座配、花魁道中の様子や人気・噂などを記した書物。また、名妓の伝記・逸話、遊廓案内など、遊廓に関するあらゆることを記したものを指す。

吉原細見とは、吉原郭内の店名・揚屋などを町名毎、通り毎に挙げ、遊女名とランク、揚代などが記された吉原遊覧のガイドブック。

本書の特色

●底本は、内外の所蔵機関が所蔵する作品を可能な限り閲覧して定めた。しかし、原本の所在不明な作品は、既刊の影印資料によったものがある。

●翻刻は、原本と校合の上、厳密を期した。第七巻は、影印とした。

●原本の細見・挿図ともに、可能な限り影印を附し、挿図中の文字は、翻字した。

●用字は、常用漢字を旨とした。

●索引は、第一巻から第六巻までを第六巻に収めた。人名索引と近世語彙研究の利用に配慮した事項索引を付した。第七巻の索引は、町名・通り名・屋号を含む、遊女名を中心として、一部禿名などでも、利用できるよう配慮した。

本書の読者対象　近世文学・近世日本語・近世浮世絵・演劇史・近世史・都市民俗学・女性史・風俗史の研究者。江戸文化風俗愛好家・歌舞伎愛好家・落語愛好家。